会 議 録

会議名

令和7年度第2回 知立市文化芸術推進会議

令和7年7月30日		開催場所	知立市図書館2階視聴覚室 14時~16時
出席者・委員	清水裕之、近藤博子、栗林昌弘、三宅隆弘、中石環、吉富靖、加藤愛、永 井淳子、藤澤幸兄、越智さや香、田原園子、牧保博 (宇納一公 委員、岡松良典 委員、David Hunt 委員は欠席)(敬称略)		
事務局	宇野教育長、市川教育部長、河合文化課長、 近藤文化課長補佐兼文化振興係長、水谷主査		

1. 議事

「知立市文化芸術推進基本計画の中間見直しについて」

(事務局から説明)

- 【委員】 中間評価指標の「歴史民俗資料館の入館者数」が目標に及ばなかったとのことですが、令和5年以前の実績はいかがでしょうか。
- 【事務局】2023 年度は21,465 名、コロナウィルスの影響が最も表れていると考えられる2020 年度は13,810 名です。コロナ前の2018 年度は23,028 名ですが、戻りきる前に2024 年度は少し下がってしまったという状況にあります。
- 【委員】 中間評価指標については、「歴史民俗資料館の入館者数」を除けば、良好な結果だったとのことで、喜ばしいことだと思います。

アンケート調査からは、文化芸術を鑑賞・活動するにあたって「費用」がハードルになりつつあるということですが、見直し案の社会情勢には、関連する記載がありませんでした。ここ1年は特に注目されており、今後5年間も注視していく必要があると思います。

「文化振興に力を入れるべきこと」の設問の回答率が上がったというのは、文化芸術に対 する意識が高くなったということだと思います。

今後5年間を考える場合に、これまでの延長線上で考えていくという考え方もありますが、延長線だけでは十分に対応できない変化もあると思います。

過去5年間と今後5年間、同じことをすればいいということだけでなく、変化の兆候を注視しながら、取り組み、5年、10年の節目に検証していくことになるのだと思います。報告書には、変化の兆候を注視して、今後5年間の取り組みを行うといった記載が必要なのではないかと思いました。

【委員】 私も同じことを思っておりまして、「文化活動をするうえで困ること」の設問において「時間」や「きっかけ」を理由に挙げた人が減少をしています。解釈するならば、何もしなかった人が、やる気を出して何かしようとしているということではないかと思います。その下の「文化振興に力を入れるべきこと」の設問の回答率の割合が高まったことは、何かしようと思ったときに課題を感じたからこそ、答えた人が増えた(=回答率が上がった)のではないかと思いました。

文化芸術活動に対する関心の高まりに自治体がどう応えていくか、多様で、質の高い公 演や展示を、地域で確保して、提供をする。当然自治体にも予算がありますので、これ は、難しい課題に臨むことになると感じました。

- 【委員】 私どもパティオ池鯉鮒では計画の各施策に様々関わりがございますが、「重点3 障がい者」の部分について紹介をさせていただこうと思います。すでに公演は終了しましたが、7月13日に東京演劇集団風「ヘレン・ケラー」の公演がございました。この公演はバリアフリー事業として、字幕や手話通訳がついているのですが、その演出が素晴らしいものでした。通常は、手話通訳は舞台の袖で、通訳をするのですが、この公演では役者さながら、舞台の中に手話通訳者(役者)が溶け込み、一体となっていました。字幕についても、単に文章が表示されているのではなく、演出の一つとして、障がいを持った方も、健常者の方も魅せられてしまう見せ方をしており、関心をしました。劇団員の方と話した際に、「バリアフリー」ということばを使わなくても、だれもが楽しめる作品づくりを行っていることを聞き、これが障がいの有無に関わらない、真の芸術のあり方なのだと感激しました。いつか文化芸術推進計画にも、あえて障がい者と載せなくてもよいような日が来るといいなと思います。
- 【委員】 コンサートデリバリーやこどもアートふれあい事業で学校に公演に来ていただく機会があるのですが、よい意味で中学生よりも小学生の反応が大きく驚かされました。感受性が豊かな年代に、本物の芸術作品に触れさせることの大切さを感じました。学校では、十分な鑑賞機会が提供できているかと問われれば、思い通りのことができている状態にはない学校が多いと思います。しかし、最近のよいニュースとしては、学校の体育館にエアコンがつくことになり、気温の影響により難しかった時期にも、スケジュールを立てられるようになりました。重点施策の中に「子ども」を入れていただいていることは、学校の立場からも賛成ができますし、ぜひ今後も推進をしていっていただきたいと思います。
- 【委員】 知立市では、パティオ池鯉鮒さんをはじめ、学校への鑑賞機会を積極的に設けており、 その成果が表れているように思います。ぜひ学校の意見を汲んで、今後も引き続き展開 ができるとよいと思います。

【委員】 パティオさんからの話にもありました、バリアフリーのお話は私も思っていることで、 足りないことを要求して何かしてもらうということではなく、障がいを持っている方 も、そうでない方も配慮し合って、自然にいられるということが、一番よい、目指すべ き状態なのだと思います。

計画につきましては、「重点3 障がい者の文化活動の機会の充実」が私どもに関わりのある部分となりますが、展開例の草の根フェスティバルは、私どもの団体が中心となって実施をさせていただいています。今年度は、演劇のような、簡単なお芝居を初めてしたいと思っています。実施に向けましてパティオさん、パティオウェーブさんのご協力をいただいており、勇気をいただきました。感謝をしております。

学校の先生からお話のありました「本物の芸術にふれさせる」ということについては、 私もその大切さを実感した経験があります。特別支援学校での公演の際に、普段はじっ としていられない子たちが、公演の時間中は見入っており、担任の先生が驚かれていま した。芸術作品の持つ力を私も実感しました。なるべく小さいうちから、どんな環境で も、どんなハンデを持っていても、作品に触れることは良い経験になると思います。今 年度企画しています、初めての演劇も、みんなに良い影響があるのではないかと思って います。

- 【委員】 「文化芸術施設等の利用状況」の設問について、前回の調査と比べて施設の利用回数が増えているということが、よかったと感じています。5年前、リリオコンサートホールでは、ワンコインで鑑賞ができるミニコンサートをはじめたばかりで、現在では48回目を数えます。コロナ禍の苦しい状況の中でも、リピーターの方が多く、取り組みの成果が数字になって表れていたとすれば、うれしい限りです。いろんなジャンルで毎月行っており、計画にもありますように「いろいろな公演の鑑賞」という部分では貢献できていると思いますし、今後も続けていきたいと考えています。
- 【委員】 アンケート調査について、多くの回答が得られたことは良かったと思います。ただ一つ 付け加えるとすれば、調査期間中にリマインドを行うことで、もう少し回答を増やすこ とができたのではないかと思いました。
- 【委員】 私ども文化協会は、施設を使って、施設に来ていただくという立場でありますが、アンケート調査結果の中の「文化芸術施設等の利用状況」を見ますと、知名度の低い施設もあります。7万人もの市民がいても、存在を知らないと回答した方が多くいることに驚きました。数字が出ているのであれば高めていくというのが計画の方向性になると思いますが、もし高めていくという方針があるのであれば文化協会も達成に向けて取り組んでいく所存です。計画の本文については、過去の蓄積の中で作り上げられた内容であり、良い言葉で書かれていると思います。

具体的にどこを変えるというのは言葉を選んで考えなくてはいけないと思いますが、書かれた言葉を実行していくということを意識していきたいと思います。

- 【委員】 文化芸術活動の多数の現場からの意見をいただきました。計画は、担い手となる方が、こうしていこうと意欲が感じられることが理想的なのだと思います。
- 【**委員**】 各団体、各施設が在りたい姿をそれぞれ持っておられて、信念を持って取り組んでおられることはよいことだと思いました。

観光ガイドとこの計画の接点は、基本施策3の3-3③「人材の育成」になります。現在は、広く活動を行っており、史跡を案内することだけでなく、来迎寺小学校では生活の授業支援、八ツ田小学校では去年から観光ガイドクラブの活動支援をしています。今年は知立小学校で授業を行うことも予定しています。

今後の目標としては、観光ガイドが他の団体から視察が来るような進んだ活動が展開できるといいなと考えています。

しかしながらこのような、観光ガイドの活動は現行の計画書の中に書かれていません。記載があれば、期待されているということが伝わり、活動の励みになりますので、こうした視点もあることは伝えさせていただきます。

- 【委員】 「文化芸術を活かす分野」の設問において、「観光」・「まちづくり」への期待が増えています。観光ガイドの活動の場を、こうした部分と絡めていくといいのではないかと思います。行政は、活動の担い手と受け手をつなぎ、関係性を強くさせることが求められますので、それがにじみ出るような内容だとよりよいと思います。
- 【委員】 今回の中間見直しですが、10 年間の計画の 5 年目の節目に、どの程度の進捗か確認を行っているものです。10 年間の長い目で、施策の大枠を定めているものですので、10 年後にも、進捗を確認することになります。計画はあくまで大枠の施策ですので、大きな変化があれば別ですですが、個々の活動の変化を積み上げて、大枠を作り直していくという方向からのアプローチは今回の中間見直しでは考えていません。
- 【委員】 計画の見直しの方針については、理解をしていますが、各施設、各団体の意欲があり、その連携の中で取り組んでいることが伝わるような形だとより望ましいのだと思います。計画書の内容自体は、今の内容でよいものだと思います。書かれている内容を、どう加速させるか各主体が考えて実行していくことが重要だと思います。

閉会